ヤングピアニストのお便りから　その1

かつてピティナ　ヤングピアニストの尊称を受けた，ヤングピアニストたちは，その後どんな成長過程を歩んでいるであろうか。入賞当時，小学1年だったヤングピアニストからのお便りをお届けしよう。

ほめるのもむずかしい

岩野　めぐみ

――前略――わたしは，今ショパンのワルツの華麗なる大円舞曲を12月の発表会にひくので，いっしょうけんめい練習しています。そして11月23日に三重県のコンクールの本選があるので，それには，シューベルトの即興曲op. 90―4をひくので大へんです。シューベルトはあきあきです。

ショパンの方は，さらい始めたばかりだからすきです。一度オーケストラときょうえんしてみたい気持もあるけど，まちがえたらはずかしいなという気持ちもあります。

アーサー・グリーン先生のこうかいこうざの時に（註　56年6月四日市市で）あく手をしてもらったので，1回レッスンを受けてみたいなあと思います。　ある日の日記から，

9月30日（水）　ソルフェージュに行ったこと。

今日は，ソルフェージュに行った。和音は，まあまあとれた。リズムのあんきは，もうおぼえられないと思ったが，さいごギリギリおぼえた。

わたしは，ソルフェージュの先生がとてもすきだ。だって，せいかく（性格）がやさしく，おとなしいし，まちがえても「ここは，よくできましたね」。と，いい所を見つけて，ほめてくれるからだ。

せんりつでも，リズムのあんきでも，和音でも，一生けんめいやれば，できるんだなと思った。

学校の先生の言葉

なるほど。よく考えればそうだ。自分のよくないところばかり注意されたのでは，だれでもいやになってしまう。うまくほめる，という事は，先生という仕事では，大切なことなんだな。僕も先生をしていて，ほめる事が大切だ！と思うのだけど，これはなかなかむずかしい。いいかげんにほめたのでは，おせいじと同じだ。その子がよくなって欲しいのだから，ほめるもしんけん勝負だと思う。しかし，しかし僕も人間でまだ一人前になれないのでつい頭にきてどなる。「コラー!!」そしてあとで後悔する。

僕も岩野のピアノの先生のようになりたい。がんばろう!!

（四日市市三野西小学校　4年）

バイオリンも本も……大好き

山中　薫

――前略――私がコンペティションを受けてから，もう3年たちました。ピアノのおけいこを始めて，間もない頃，生れて初めて発表会に出て，とってもうれしかったのを，よく覚えています。幼稚園の時でした。

それで，ピティナの時は，舞台に出るのは二度目で，少しきんちょうしましたが，やっぱりうれしくて，それが決勝まで出られて，夢のようでした。

だから土浦の（註・1978年12月26日のこと）演奏会に出られた時は，うれしくてウキウキ。その時の気持は，忘れられません。

――中略――

その頃，小さい時からやりたくてお願いしていたヴァイオリンを習わせてもらえる事になって私はヴァイオリンもピアノと同じ位好きになってしまいました

バイオリンも演奏する　山中　薫ちゃん

ヴァイオリンの発表会ではピアノも一緒に弾かせてくれるので，いつもわくわくしています。

この間，イギリスから，ハンガリー人のピアニストのピエール・モソニー先生という方がいらして，私達のヴァイオリンと一緒に，バッハやモーツァルトのコンツェルトを弾きました。その時，ピアノでモーツァルトのピアノコンチェルトをレッスンしてもらって，先生から「ずっとピアノを続けなさい」と，言っていただいて，とってもうれしかったです。

言葉はわからなかったけれど，音楽は本当に通じるなとつくづく思いました。とても楽しい思い出でした。

いつも，ピティナの入賞した人達のコンサートを聞きに行くと，「私もあんな風に弾きたいな。一生懸命おけいこしよう」と思っているのですが。……

私は，ピアノやヴァイオリンの他に，本を読むのが大好きで，どうしても毎日一冊は読み終らないと気がすみません。それに宿題も毎日あるので，ピアノのおけいこは1時間位しかしていません。アイススケートや水泳や，外で遊ぶのも大好きで，仲々落ち着いてピアノだけ弾いていられないのです。

でも土浦の演奏会の時，福田先生が，指のことを注意されたので，その言葉を忘れずに，しっかり指の練習をし，少しでも上手になりたいと思います。

（日本女子大附属豊明小学校　4年）

ヤングピアニストのお便りから　その２

ヤングピアニストたちから多くのお手紙を頂いた。その中で，昨年開催された第10回ショパン国際コンクールに関連した内容を持つ２つのお手紙を御紹介しよう。

ショパンコンクールのライヴレコードを聴いて

西沢　綾

――前略――　今年は，リーズ国際コンクールの年でした。昨年のショパンコンクールから，もう一年間たったのですね。ショパンコンクールでは，日本でも翌日には，その結果がわかりましたのに，リーズのことは，今だに（56・10・３現在）どうなったかわからずにいます。

昨年，ワルシャワに行けなかったこと，今だに残念です。でも考えてみれば，ワルシャワの会場の席一席当り，120名の希望者があるということですから，偉い先生方が行かれた方が，有意識であったと思います。

今さらのことですが，いつかワルシャワのことを聞かせて頂きたいと思います

私は今，日本で発売されているショパンコンクールのライヴレコードは，全て買い，それを機会ある毎に聴き，非常に役立てています。

テレビで見るその体の柔らかさは，本当に驚くものですし，手首の使い方などは，私もそれを見たあと自分のものと比較し，改めていきました。でも思えば，福田先生はその生演奏を聞いてこられのですね。

二次予選の時の，５人目のダイ・タンソンをお聴きになりましたか…　あれは最高だったとの事。あの人は，個性的な音色と，私の今迄知らなかった様々な，特殊なテクニックをもっていると思います。

２位のソ連のシェバノヴァは完璧ですが，もう一つ明るい輝きがあった方がいいと思いますし，やはり私とすれば，あの結果は正しかったと思います。

私達は，あのファイナルの舞台でのピアニストは，別世界の人々のようにとらえてしまいますが，先生はとてもあのコンクールが身近に，思われたのではないですか，きっとそう思います。

――後略――　　（長野県小布施中学２年）

1980年10月16日ポーランド　ショパンコンクール第三次予選。弾き終えて熱狂的な聴衆に応える　イーヴォ・ポゴレリッチ。福田靖子写す。

FMでイーヴォ・ポゴレリッチを聴いて

本田　順一

今日は10月32日の金曜日，寒いけど，一応晴れ。

昼，FMでイーヴォ・ポゴレリッチ演奏のショパン，ピアノソナタNo2 op35を聴きました。

まあ意表をつかれたというか，第一楽章のGraveのリズムのとり方からして，あれ，と思いました。そして，Doppio movimentoに入るとノンペダルだし。

けど，ポゴレリッチの情感の豊かさが，正統派でないというイメージを消したような演奏だと思いました。（日本の演奏家はこれができない）

何度かFMで，ポゴレリッチの演奏を聞きましたが（すべてショパン）ポロネーズNo5 op44の曲が一番印象に残っています。

ポロネーズといった舞曲というものを越えた，もっと激しい何かを感じました。ショパンコンクールの第三次予選で惜しくも消えていった，このユーゴースピアの天才に，心から拍手を送りたいと思います。

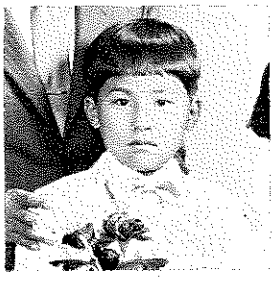
――中略――

さて，僕は，昨年からとにかくパーフェクトな音をつくることを目標にしました。（昨年の採点表にも，ずい分いろんな先生からタッチの問題を書かれた）そして，現時点で一つの到達ラインに達したと思います。

さらに来年迄に，今度は正確なタッチを勉強します。（日本人は技術の面で世界のトップクラスを行くといっても，完璧でない。この間の毎日コンクールの本選を聞いてもわかるとおり，完璧な演奏はできてなかったと思う）もっと日本人は幅広い演奏を耳にすることが必要だと思いました。パデレフスキーからポリーニ迄。バッハからストラヴィンスキー迄。

アーサー・グリーン先生の岡山でのリサイタル楽しみにしています。　　（岡山県立西大寺高校　１年）

ヤングピアニストのお便りから　その3



すばらしいコンサート

徳山でのピティナ　ヤングピアニストコンサートに出演して

河村　進
（徳山市立桜木小学校4年）

第3部が始まった。次から次へと金賞受賞者のえんそうが続いて，ぼくはうっとりしていた。花につつまれたように気分がよかった。

ピアノがひびいて気持ちよかった。ぼくも先生が教えてくださった通りにひけていたら，もっと気持ちよかったのにと思う。特にぼくの曲は，最後の部分が，いつかえい画で見たアフリカの大草原を真っ赤にそめて，太陽が地平線にしずんで行くような感じで気に入っている。

ぶ台に出た時は，どきどきして息がつまって苦しかった。礼をするとはく手が起こった。体じゅうが熱くなる。ピアノのけんばんが目にとびこんでくる。まちがえたらどうしょう。そのとたん早く終らないかなという感じがちらっとする。心で歌ってみる。あまりどきどきしなくなる。ひけるような気がし始める。

静かにひき始めた。「まちがえないように」ばかり考えていた。後半になると教えてもらったことが少し考えられるようになった。でもまちがえたらいけないので思いきってはできなかった。思いきってやれたらすばらしい音楽になるのになあと残念だ。金賞受賞者は，すばらしいなあと思った。

どうしてぼくはぶ台でまちがえないようにばかりしか考えられないのだろうか。練習する時に

「はじめだからしょうがない。」

「人間だからまちがえるのはしかたがない。」

「本番にまちがえなければいいや。」

と思ったりして，まちがえても気にしないのがいけなかったと思う。今度からは1回1回をコンサートのつもりで練習しようと思う。

友情出演で，ぼくと同じ曲があったので心配していたが，帰る時福田先生が，

「君，よかったよ。」

と声をかけてくださったのでうれしかった。

アメリカがなつかしい

大島　有加里
（高松市立鬼無小4年）

先生こんにちは。長い間お会いしていませんが，お元気でいらっしゃいますか。私も元気でピアノや勉強に，はげんでいます。

手紙を書いていると，急に先生の顔がなつかしくなり，アルバムを広げてアメリカへ行った時の，とても楽しかった事を思い出しました。

これからも，もっともっとピアノの練習にはげんで，大きくなったらオーケストラとあわしたり，もう一度，先生といっしょに外国へ行ってみたいと思います。

高松にも一度いらして下さい。

楽しみにまっています。

アメリカ・ミュージックキャンプに行ってきました

芦川　真理子
（都立芸術高校2年）

――前略――　早いもので，私もあっという間に，高校2年となり，そろそろ大学のことも考えねばと，いろいろ悩んでいます。

7月から8月にかけて，私はアメリカに行ってきました。そこで2週間のミュージック　キャンプに参加し，様々な貴重な体験をしてきました。

日本人など一人もいないキャンプで，まるっきりアメリカ人の中で生活できた2週間は，私にとって非常なプラスになったのではないかと思います。

そこで，オーケストラにも入り，（私は高校の副科でヴァイオリンをとっているので）第2ヴァイオリンの一番うしろの席で弾いていました。

大勢で音楽をつくりあげていく，おもしろさも充分に味合ってきました。

2学期というのは，本当に行事が多く，中間試験を目前に迫って，あせりまくっている今日この頃です。